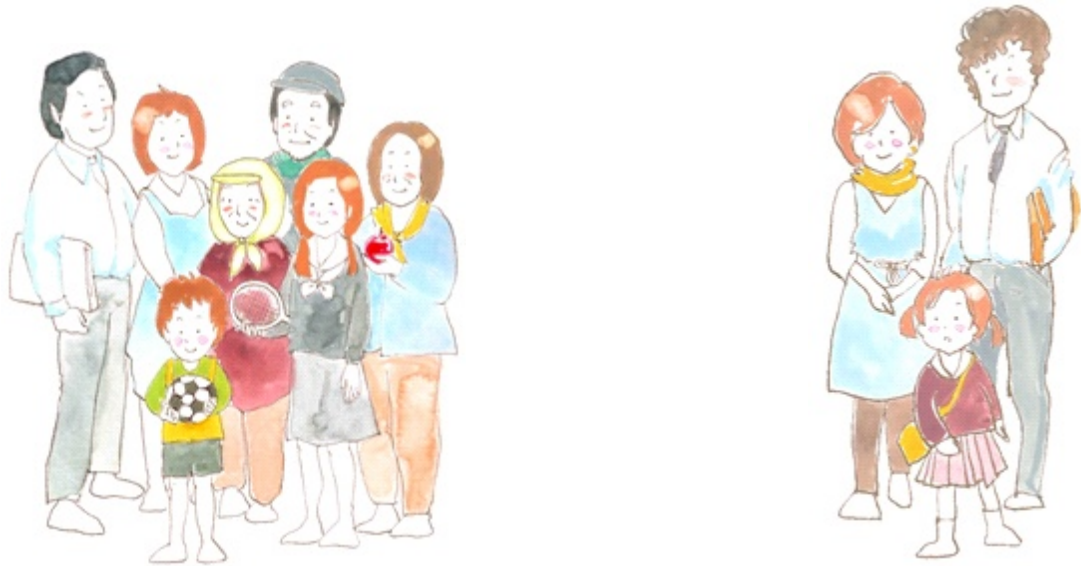


# 2030年さいたま市の 市民生活シナリオ

(2014/6/18版)



まちづくり市民ネットワーク・さいたま

## 目次

はじめに	1
エリア 都心居住地	
1 - 1 . Aさん家族	2
1 - 2 . Bさん家族	3
1 - 3 . Cさん一家	5
エリア 駅周辺居住地	
2 - 1 . Dさん	7
2 - 2 . Eさん家族	8
2 - 3 . Fさん家族	9
エリア 郊外型居住地	
3 - 1 . Gさん家族	11
3 - 2 . Hさん家族	13
3 - 3 . Iさん家族	15
エリア 田園居住地（市街化調整区域）	
4 - 2 . JさんとKさん	16
4 - 2 . Lさん家族	17

## はじめに

### 市民生活シナリオ作成の狙い

「2030年さいたま市の市民生活シナリオ」は、さいたま市の将来像を市民側から考えてみようという試みである。

この試みを考えた理由のひとつは、さいたま市都市計画マスタープラン改定案における「集約型都市構造」への疑問にある。この案では、人口減少社会、低成長時代に向けた効率的な都市経営のために、中心都市軸への人口集積と郊外部の低密度化の方針が出されているが、その両方において、どのような生活が目指されているのかが不明である。

私たちも、都市のコンパクト化の方向に異論はない。しかし、そうだとすると、中心部でも郊外部、あるいはその外側の田園地帯においても、それぞれのライフスタイルに応じた豊かな生活があるべきだと思う。それを描いてみることに意味があると考えた。

### 市民生活シナリオ作成の枠組み

中心市街地から田園地帯まで、それぞれの地域での生活像を描くため、表のような4つのエリアとそれぞれのエリアに暮らす2～3の家族（住宅）を想定した。家族の想定にあたっては、将来考えられる多様な家族タイプを踏まえるとともに、それぞれのエリアでの居住に適した家族を想定した。

< 2030年市民生活シナリオの枠組み >

	エリアの特徴	家族構成と住宅
エリア ：都心居住地	主要駅から徒歩圏内 商住混合 人口高密度 緑地は公園や街路樹等	Aさん家族：20代夫婦、中層賃貸マンション
		Bさん家族：50代夫婦子ども2人、母親は施設に、代々この地で商売、店舗併用戸建て住宅
		Cさん家族：70代女性単身、同年代女性と賃貸シェア
エリア ・駅周辺居住地	全駅から徒歩20分以内 おおむね住宅用途	Dさん：20代男性単身、学寮風シェアハウス
		Eさん家族：30代夫婦子ども1人、中層分譲マンション
		Fさん家族：70代夫婦、子どもは近居、戸建て住宅
エリア ：郊外型居住地	全駅から徒歩圏外 おおむね低層住宅	Gさん家族：50代単身男性子ども1人、戸建て住宅
		Hさん家族：70代夫婦成人子と同居、中層分譲マンション
		Iさん家族：60代夫婦、子は独立、大きな戸建て
エリア	市街化調整区域	JさんとKさん：30代女性外国人、古民家を借りてシェア
		Lさん家族：60代夫婦四世代、代々の農家を増改築

### 市民にとって望まれる生活を描く

現状の問題点、課題は多々あるが、まずは2030年という将来において、こんな生活がしたい、こんな生活ができるのではないかと、というイメージを描いてみたい。

浦和、大宮等の主要駅から徒歩圏内にある「都心居住区」では、車の通行が抑制された、安全で快適な都市空間の中で、若い働き盛りの市民や事業者そして高齢者などが、一緒に都市文化を享受するような生活ができないだろうか。

その他全ての駅からの徒歩圏内にある「駅周辺居住区」は、住宅都市さいたま市の基幹をなすエリアであるが、そこでは、単身の若者から子育て世代の核家族、リタイヤした高齢世帯などの多様な市民が暮らす。自治会を含めた市民の活動が多様なサービスを提供しあいつつ、活発な地域生活の営まれることが期待される。

駅からの徒歩圏外にある「郊外居住区」では、多少の不便は受け入れつつ、豊かな自然環境の近くでの暮らし方を志向する市民が、自立的な生活を営むことが考えられる。

また、市街化区域の外側の「田園居住区」では、新旧の農業者がしっかりした農業を営むとともに、豊かな農緑地環境を求める人々が、ユニークな生活をするのではないだろうか。

このような生活シナリオを描いたうえで、それを可能にするために必要な「社会システム」を提案していきたい。また、現在の都市政策に対しても、新たな視点を提供できるのではないかと考えている。

## エリア 都心居住地

### 1 - 1 . 2030 年の市民生活シナリオ：Aさん家族

Aさんは20代後半の夫婦。子どもはいないし、生む計画もない。いわゆるDINKS。  
住宅はさいたま市の主要駅から徒歩7分の中層賃貸マンション。

#### [ 仕事・労働（ワークライフバランス） ]

夫は東京の遊園地に就職。日曜日も出勤だが、残業はあまりない。妻は東京の衣装、装飾品などの大型専門小売店に就職。日曜日の出勤はときどきあり、残業も少ない。

#### [ 買い物、消費活動 ]

日常の買い物は、マンション一階の共同店舗経営のコンビニを利用。

まとまった食料品は、主にオーガニックデリバリー（週1宅配）を利用。不在時には、マンションのフルタイムロッカー（冷蔵対応）に配達される。

#### [ 趣味、余暇活動 ]

それぞれ駅近くのフィットネスクラブに所属しており、定期的に通っている。

夫婦が同時に休日の日には、会員になっている市内のミニシアターへ、観劇や映画鑑賞に行く。その後食事に行くのを楽しみにしている。

夫は、妻が勤務で一人で在宅のときは、東京の秋葉原へ遊びに行く。妻は、夫が勤務で一人で在宅のときは、女ともだちと新宿などで遊ぶ。

#### [ 地域活動、公共サービス ] [ 防災防犯 ]

マンションの管理組合が、まるごと自治会に加入している。組合に積極的に関わってはいないが、ローテーションの役割（理事等）や避難訓練などには必ず参加。同じ階の人とは顔見知り。

#### [ 医療、福祉 ]

医療関係はドラッグストアで風邪薬等を買う程度。病気になったときは、駅周辺の医院に行く。

#### [ 移動活動 ]

自家用車はもっていない。レンタカーで遠出することもある。

#### [ エネルギー・廃物処理 ]

家庭用のエネルギーは、都市ガスと電気。廃物処理は、公共サービスで。

## 1 - 2 . 2030 年の市民生活シナリオ：B さん家族

Bさんは50代後半の夫婦。長男が中学生、長女は小学生。80代の母親は、足腰の具合が悪く、エリアのグループホームに入居している。

住宅は主要駅から徒歩5分、親から受け継いだ戸建て併用住宅。

## [ 仕事・労働（ワークライフバランス） ]

職業は豆腐屋。妻も一緒に働く。住宅の一部が加工場になっており、販売もする。販売は、Aさんの住むマンションの一階にある共同店舗でも行っている。

共同店舗では、地域の御用聞きや商品の配達も行う。

地元商店街は、昭和の街並みを残す個性的な景観を保ち、さいたま市の農産物や加工品を売ったり、時に珍しいエスニック料理店などがまじる。

「二」のつく日にたつ「二日市」には、市の内外からたくさんのお客が集まり、賑わう。

## [ 子育て・教育 ]

長男は市立中学校の2年生。週2回学習塾にも通っている。

長女は軽度の発達障害があるが、近所の市立小学校の4年生。近所の音楽教室でフルートの演奏を習っている。音楽教室へ行く時間以外は「地域交流センター」に併設される学童保育施設で過ごす。

## [ 買い物、消費活動 ]

日常の買い物は、殆ど住居近隣の商店で買う。近隣商店は皆友達でお互い様。近隣商店で買えないものだけ大宮や浦和のデパート、大型専門店へ買いに行く。

## [ 趣味、余暇活動 ]

豆腐文化研究会の活動を通じて、国内外の同業の友人達と交流するのが、楽しみである。

## [ 地域活動、公共サービス ]

共同店舗の二階は「地域交流センター」として、様々の人々の集い交わる場となっている。

休日はPTAや学童保育の会議やバザーに駆り出されるが、地域活動の一環と考えて楽しく取り組んでいる。

商店主や古くから地元に住む人達は自治会に加入している。また、商店街とその付近に事務所を置く、商店ではない事業所にも自治会に加入している。共同住宅は、そのまま自治会に加入するか、それ自体で独自に自治会を組織している。

近くの神社の祭礼は、商店街より広い地域の住民である氏子が主催し、商店街の商店主を含む古くから地元に住む人達はその一員である。Bさんも祭りや盆踊りには小まめに付き合ってい

る。

[ 防災、防犯 ]

自治会の活動は防災・防犯とゴミ対策が重点である。  
庭に古くからある井戸があり、緊急時の防災井戸となる。

[ 医療、福祉 ]

母親は、月曜日から金曜日まで、特養で過ごす。金曜日の夜に自宅に帰り、月曜日の朝、特養に行く。Bさんは、特養に豆腐を納入しており、配達の際には、母親を訪ねることも。

長男の発達障害については市内総合病院にカウンセリングに通う。家族の風邪・発熱や下痢は商店街の中のクリニックで診察、施薬してもらう。

[ 移動活動 ]

資材の搬入や商品の配達用に燃料電池式の軽トラックを持っている。自宅に車庫がある。また、母親は電動車椅子に乗る。

[ エネルギー・廃物処理 ]

家庭用と豆腐製造用のエネルギー源は都市ガス。都市ガスは水素。

### 1 - 3 . 2030 年の市民生活シナリオ：C さん一家

Cさんは70代女性。エリア で夫と暮らしていたが、5年前に夫がなくなり、マンションを売って、主要駅から徒歩5分の賃貸シェアハウス(4LDK マンション)に引っ越してきた。不動産を売った収入と夫の遺産で経済的には余裕がある。

娘は結婚して長野県に、息子も結婚して仙台に赴任している。孫はそれぞれに2人ずつ居る。女、男と男、女。孫の便りを聞くのは楽しい。

そのシェアハウスには同年代の女性2人、およびミャンマーからの留学女学生と一緒に住む。高齢者にはやり難い作業(ex.重い野菜の買物)を留学生在が担い、代わりに分担する家賃を半額にしている。

住むシェアハウスではペットの飼育ができるので、小型犬を飼い、朝夕散歩させる。

駅前を歩いて小一時間歩くと、日陰がある緑道の歩道があり、途中で休めるポケットパークが整備されているので、快適。同じく散歩させている近所のひとのおしゃべりも楽しい。

家を空ける時には、同居人が散歩などをさせてくれる。

#### [ 仕事・労働（ワークライフバランス） ] [ 子育て、教育 ]

マンションの一階にある地域交流センターで、長年精進してきた華道の経験を子ども達に伝え流活動をしている。

#### [ 買い物、消費活動 ]

近くにデパート、小売商店、高級レストラン、大衆飲食店が多数あるので、買い物、消費活動で困ることはない。東京都心での外食や通信販売も利用することもある。

#### [ 趣味、余暇活動 ]

自身が卒業した高校のOG合唱団に所属し、週1回練習に参加する。その帰りに仲のよい参加者と食事するのが楽しみ。

#### [ 地域活動、公共サービス ]

自治会には同居の女性4人ひとまとめで加入している。

女性部に所属し、同じマンションや近隣のひととも顔なじみが多い。

住むシェアハウスの外回りは監視カメラが完備され、身体異常の緊急通報システムも整備されていて、警備センターで常時見守られている。

ユニセフ、国境なき医師団、大震災支援などに少額の寄付を続けている。

#### [ 医療、福祉 ]

時々訪ねてくる民生委員と話をするが、とくに助けを必要とすることはない。

加齢黄斑変性による視力障害を iPS 細胞で治療し、視力回復したので、毎月 1 回近所の眼科医院で経過観察してもらっている。

他に年齢からくる内臓と関節の持病があるが、駅周辺のかかりつけのクリニックに歩いて通う。

#### [ 移動活動 ]

まだ歩行に問題ない。駅周辺の用事は歩いて済ませる。自転車は危ないので止めた。

車の運転はしない。車で出かける必要があるときは、マンションのシェアカーかレンタカーを利用し、留学生が運転する。

#### [ エネルギー・廃物処理 ]

建物の断熱、遮光がよく、住居空間もコンパクトなので、冷暖房は効率がよい。シェアハウスは当然低炭素建築物に認定されている。

廃棄物処理、下水処理は行政サービスに依存。



## エリア 駅周辺居住地

### 2 - 1 . 2030 年の市民生活シナリオ : D さん

D さんは 20 代前半の独身男性、一昨年に地方の高校を卒業後、都内の企業に就職して上京したが、昨年そこを退職し、今はさいたま市に住んでいる。

住居は、はじめはワンルームマンションに住んでいたが、駅に近い学生寮型のシェアハウスの存在を知り、今はその一室を借りている。入居者は、30 名。

#### [ 仕事・労働（ワークライフバランス） ]

エリア の共同店舗で、週4日勤務。フルタイムで配達や御用聞きを行う。

週2日と夜間に、情報メディア専門学校に通い、コンピュータープログラミングやデザインを学んでいる。将来それを仕事としたいと考えている。

#### [ 買い物、消費活動 ]

地域の商店街に行きつけの食堂がある。ファミレスと違い、安くてバランスのとれた食事が出るし、店の人や常連たちと話をしたり、テレビを見たりする。コミュニティの居間になっている。

夕食や休日の食事は、シェアハウス内の台所も使える。月に一回は、同じフロアの者たちと食事会をする。

#### [ 地域活動、公共サービス ]

地域の自治会に参加している。若い者は少ないので、防災活動などでは貴重な存在であり、消防団も務めている。町内の人達から頼りにされており、休日、地域活動に参加することで、かえって仕事の疲れも取れる。

#### [ 移動活動 ]

普段はもっぱら自転車を使う。歩行者・自転車・自動車の共存のルールが浸透してきており、市内ならだいたいどこまででも自転車で行ける。

仕事の配達業務でも、カーゴバイク(前に荷車をつけた自転車)を使う。所々にあるデポから先は、カーゴバイクなら狭い道でも楽に配達ができる。

#### [ エネルギー・廃物処理 ]

寮の屋上には、太陽光パネルが設置されており、共有部分の電気をまかなう。

## 2 - 2 . 2030 年の市民生活シナリオ：E さん家族

E さん家族は、30 代半ば、夫婦と幼稚園の子どもの子の核家族。夫はさいたま市育ちだが、妻は市外出身である。

駅に近い中層分譲マンションを買って住んでいる。ローン返済あり。(いわば新住民)

### [ 仕事・労働 (ワークライフバランス) ]

E さん夫は、都内企業に勤めるサラリーマン。朝は7時半頃に家を出て、8時前の電車に乗る。帰りはおおむね8時過ぎで、いわゆるさいたま都民である。

E さん妻は、市内にある福祉施設のスタッフとして働く。

### [ 子育て、教育 ]

幼稚園の子どもは、幼児施設に入れている。人口減少に歯止めをかけるため、さいたま市では近年幼児施設が充実しており、待機児童はいない。

### [ 買い物、消費活動 ]

買い物は、日用品は駅前の地元商店街・スーパーで買って帰る。

宅配も利用。留守のときは、マンションのフルタイムロッカーに配達される。

### [ 医療、福祉 ]

地域にホームドクターがあり、日頃から健康管理をしてもらっている。軽い病気の際はそこへ通う。

### [ 移動活動 ]

E さん家族は、自家用車を持たない。マンションで会員制のカーシェアリングクラブに加入しており、必要な場合には、用途に応じて適切な車種の車を利用する。自宅のパソコンで予約や支払いを出来るのがすごく便利。また、車の維持管理の手間や費用が掛からないので楽だ。会費や利用料を払っても、結果的には、自家用車を保有しているよりずっと割安だ。

### [ エネルギー・廃物処理 ]

マンションの屋上で、太陽光発電装置が設置されており、共有部分の電気をまかなう。

マンションの取り決めで、できるだけ壁面緑化をすることになっており、各戸のベランダはみどりや花に包まれいている。

## 2 - 3 . 2030 年の市民生活シナリオ：F さん家族

F さんは、70 代後半の夫婦。子どもは独立して市内の同じ区内に住んでいる。いわゆる近居。住居は駅から徒歩 10 分の戸建て住宅。ここに住んで 30 年以上、ローンはすでに終わっている。(一応旧住民)

### [ 仕事・労働 (ワークライフバランス) ]

F さん夫は、大学で教えていたが、数年前にリタイヤして今は年金生活。研究を続けつつ、市内外や地域で、専門知識に基づく講演や相談会を引き受けることもある。

F さん妻は、女性問題や環境問題の NPO で長く活動しており、毎日忙しい。今年から自治会長を務める。

### [ 子育て、教育 ]

近くに住む娘夫婦はどちらも東京でフルタイムで働く。孫は 5 歳と 2 歳。二人とも近くの幼児保育施設に預けている。孫たちの通っている施設は、マンションの空き室 (集会室と空き室) を改造したもので、NPO が運営している地域交流センターの一部。夫婦ともども、地域交流センターのサポートスタッフとして、週に一日は、保育の補助に入り、かたがた孫と遊ぶ。

### [ 買い物、消費活動 ]

買い物は、主に宅配を利用する。駅前商店街に地元商店から移行したコンビニがあり、そこが指定した時間に配達してくれる。

そこは荷物受け取り・再配達サービスもあり、よそから来た荷物も受け取っていてくれて、こちらが指定した時間に配達される。

### [ 趣味、余暇活動 ]

F さん夫は、自然保護活動にも参加しており、地域の学校ビオトープの管理にも参加している。エリア の「市民田圃」の活動にも参加しているが、くたびれてきたので口が多い。

### [ 地域活動、公共サービス ]

F さん妻が会長を務める自治会では、地域の環境改善に取り組んでいる。良好な住環境保全のために、地区計画を策定する準備に入っている。また、地域内の緑地保全活動の一環として、地域内の屋敷林の保全活動を自治会の部会で行っている。

戦前からあったお屋敷が空き家となり、そこを改造して地域コミュニティ施設としている。自治会もそこに事務局を置く。

## 〔移動活動〕

市内程度の移動は、自動運転の自家用車を利用。主に妻が使う。その他は、普段は専らコミュニティバスを利用する。ダイヤモンド運行なので、家の近くまで来てくれるし、スーパーや病院、駅や区役所など、いつもよく行くところを巡回し、料金も高齢者割引が使える。遠出は、娘夫婦に頼む。

## エリア 郊外型居住地

### 3 - 1 . 2030 年の市民生活シナリオ：Gさん家族

Gさんは50代前半の単身男性。高校生の娘と二人暮らし。

自宅は戸建て。ミニ開発で敷地が狭かったが、隣家が空いたときに借用することにし、庭を広げた。そこで家庭菜園を作り、一部に娘がビオトープを作っている。

#### [ 仕事・労働（ワークライフバランス） ]

地元出身で大学はIT関連学部を卒業し、都内企業に勤めていたが、やめて独立、サテライトオフィスを自宅に立ち上げ、テレワークをしている。

副業として、市内のシェアオフィスや家電量販店が顧客獲得戦略で行なうパソコン教室などで技術ノウハウを生かせる講師もしている。

#### [ 子育て、教育 ]

娘は、自転車通学。学校ビオトープ委員会や部活で忙しく、休日も家にいないことが多い。

比較的静かな環境で、通学も自治会員などのボランティア見守り隊がいるが、まばら。複数の学友と一緒に登下校している。情報通信技術で管理された「登下校電子見守りシステム」があるので、安心。

#### [ 買い物、消費活動 ]

付近には地元商店は少なく、あっても万屋程度なので利用しづらい。食材などの日用品は、宅配を利用するが、野菜などは時々付近の農家がやっている産直直売所を利用している。娘と2人暮らしなので、月に2回程度は、さいたま都心のステーキハウスなどに出かけて、コミュニケーションを図ったり、台所の手間を省いたりもしている。

#### [ 趣味、余暇活動 ]

週に一度は打ち合わせに都内に出かけるが、日常は自宅で仕事をこなせるので、時間のやりくりは自由度が増した。そのため職域中心人間から地域人間へと変わり、地域への気付きから今では消防団の団員として中核的役割を担いだした。

自宅菜園で野菜作りをしており、趣味と実益を兼ねる。

付近の地域の屋敷林等に自然が残されており、地権者と周辺住民協働の保全活動もコミュニティ活動の一環として定着し、剪定や草刈、落ち葉集めての堆肥化などの作業に参加している。堆肥は地権者の畑に還元したり、一部を市民農園利用者に低額販売している。

## [ 地域活動、公共サービス ]

最近この地域では人口減少から小学校の空き教室が出てきたが、そこは地域交流センターの補完施設として高齢者、子どもなども集える形になっている。そこでのボランティアも模索中だ。

## [ 防災、防犯 ]

住宅地周辺は住宅もまばらで、高齢居住者が多い。消防団員として顔見知りになっているので、住民と協議し、地域の安否確認にテレビ電話も敷設した。

自分の専門である情報通信技術を活用した、地域防災・防犯システムを構築し、運用の中心となっている。

## [ 医療、福祉 ]

健康診断や人間ドックは少し遠方の総合病院で受診し、カルテを残し、将来に備えている。

## [ 移動活動 ]

一人乗りの超小型モビリティ(小型のエコカー)を持っており、市内程度ではそれを利用。駅へは自転車。時間がゆるせば、健康のため歩く。

## [ エネルギー・廃物処理 ]

外断熱化等のリフォームを行い、エネルギーロス対策を行なった。

団地内の空き地をいくつか集めて、共同で太陽光発電を行っており、共有施設や非常時の電源となる。日常一般にも廉価で販売。

上下水道ガスは敷設されてまだ新しいので心配ない。

### 3 - 2 . 2030 年の市民生活シナリオ：Hさん家族

Hさんは70歳後半の夫婦。夫はまだ健常だが、妻は車椅子生活。しかし元気にどこへでも出かける。家には40歳前後の娘が同居。

住宅は中層の分譲マンション。築50年以上の階段だけの中層マンションだったが「エレベーター設置」と「身障者支援住み替えシステムの構築」が行なわれた。

#### [ 仕事・労働（ワークライフバランス） ]

Hさん夫はシルバー人材センターに登録し、週3回市内の図書館勤務をしている。

Hさん妻は、読み聞かせサークルに所属しており、週1回程度は、図書館や公民館などで読み聞かせの会を開いている。

娘は、市内の企業でフルタイムで働く。

#### [ 子育て、教育 ]

団地内に出来た空き家を借家利用して、自治会事務所が設けられている。託児所機能も持ち、地域交流センターのイベントのときなどに利用されている。

Hさん夫妻も時々イベントに参加し、地域の話などを紙芝居風に子どもたちに聞かせている。新旧住民の良いコミュニティが出来そうだ。

#### [ 買い物、消費活動 ]

買い物は、おおむね宅配ですませるが、たまにエリアにある地元商店街に通う。団地で所有しているカーシェアリングを利用して妻を乗せての気晴らしを兼ねる時もある。チャトルバス利用の時もある。

#### [ 趣味、余暇活動 ]

夫の趣味は付近に残る歴史や文化を調べることだが、図書館でのバイトが好都合だ。妻は足が不自由だが、頭と手は良く働くので、時々地域交流センターでのサロンに夫と共に参加している。センター喫茶部からの出前の飲み会やお茶会があり、仲間と話すことで生き生きとしていることが長生きの秘訣だと頑張っている。

#### [ 地域活動、公共サービス ]

Hさんのマンションは、共有スペースと一階の空き室を、地域交流センターとして提供しており、団地外も含めた、地域活動の拠点となっている。

団地内では単身者の安否確認も兼ねた宅配食サービスが人気となっている。Hさんも時々ネットで注文して利用している。団地でのまとまった需要があるので、商売として成り立つ。

団地内では自治会を中心に、自主防災組織が造られているが、昼間時間帯に比較的若い

人が少ないので、大震災などでの対応を検討中。また高齢者世帯が多く火災対策も重要なので火災報知機の動作確認や人感センサー設置促進を重点管理項目としている。周辺の防犯対策は団地内健常者がグループを形成し、巡回している。また単身高齢世帯には宅配食業者だけに任せず、自治会として話し相手になる等地域包括支援センターと共にきめ細かく対応している。

住民による買い物「お助け隊」などが自治会で活躍している。

#### [ 医療、福祉 ]

地域拠点に共同医療施設があり、曜日毎に専門医が配置されている。自分の持病の曜日に通う。

地域医療システムが構想されつつあり、各個人のデータに基づき、健康管理・病気の予防から、治療、在宅での介護支援まで、一貫して管理する仕組みができつつある。

#### [ 移動活動 ]

団地で複数のエコカーを所有しており、カーシェアリングをしている。

比較的戸数の多い団地なので民間バスが最寄り駅まで運行していたが、乗客が減少したため、一部住民負担型のバス運行となっている。(毎月必ず一定額の回数券を購入)。娘は通勤に利用。

「福祉デマンドタクシー」も走っている。

#### [ エネルギー・廃物処理 ]

エコエネルギーの点では太陽光発電パネルを住棟屋上に設置している。これは管理組合が行っており、利益は長期修繕費用に充当するということにしてある。また災害時の電源としても位置づけている。



### 3 - 3 . 2030 年の市民生活シナリオ：I さん家族

60 歳台夫婦。子どもは独立して遠隔地に別居。子ども部屋を同世代のふたりに貸し出し、シェアハウスとしている。同居人とは家事を分担するなど、相互に生活支援。

住居は、戸建て分譲団地。子どもが小学校に通う頃に、環境を考えて、エリア に新居を移す。

#### [ 仕事・労働（ワークライフバランス） ]

さいたま市内の企業に勤務していたが、50 歳のとき、子どもが独立して部屋が空いたことを契機に、数名入居のグループホームを立ち上げた。

自宅を増改築し、ホームとして提供。NPO 法人を作って、そこが経営する。

#### [ 趣味、余暇活動 ]

敷地内、及び隣接の空き地を借りて、野菜作りを楽しむ。グループホームの入居者も参加し、収穫した野菜は、日々の献立にも利用する。

#### [ 地域活動、公共サービス ]

グループホームとして、地域の自治会に参加。

日頃から、地域の人々との交流を図っているが、お祭りなどのときは、ホームの入居者も参加したり、縫い物・小物などを出展したりしている。

#### [ 移動活動 ]

入居者の送迎や通院などには、プラグインハイブリッド型のワンボックスカーを利用する。

ホームのスタッフは、自転車や超ミニカーで通ってくる。

#### [ エネルギー・廃物処理 ]

グループホームの屋根全面に太陽光発電システムを設置。消費電力の半分をまかなうとともに、災害時の備えとしている。

## エリア 田園居住地（市街化調整区域）

### 4 - 1 . 2030 年の市民生活シナリオ：JさんとKさん

Jさんは30代後半のカナダ出身の女性、独身。Kさんは30代後半の韓国人女性、幼稚園に通う子どもがいるシングルマザー。

どちらも日本の里山の美しさに惹かれて、居を定める。一戸建ての古民家風の農家を、シェアハウスとして共同で借りる。

#### [ 仕事・労働（ワークライフバランス） ]

Jさんは、区内の中学校で英語のサポーター。中学校での授業がない時は、中心駅近くの英語学校の講師もしている。同僚や生徒とのコミュニケーションの中から生活上の情報を得ている。

Kさんは、画家。創作活動をしており、近くの代用水沿いのカフェで個展を開いたりしている。週に一日、東京の美術大学で教える。

#### [ 子育て、教育 ]

Kさんの子どもの通う幼稚園は、エリア内にある里山の雑木林にあり、送迎の時に会う草花や小鳥や梢のざわめきなど、子どもと一緒に五感で感じる日本の自然を満喫しつつ創作意欲を高めている。やや料金が高いが、自然の中で子育てしたい家庭の子が、他エリアからも通う。

来年から、通学区域の市立小学校へ入学する予定で、通学班となる近所の子ども達とは、自治会の子ども会活動を通じて既に親しくなっている。

子ども会へはJさん、Kさんも参加して、英語の遊びや韓国の踊りや歌を披露したりして交流を深め、地域に溶け込んできている。

#### [ 買い物、消費活動 ]

買い物はもっぱらJさんの担当。自転車での量販店巡りの中で格安の品を見つけることを得意として、Kさんの分も買出しを引き受けている。

又、近くの直売所にも時々行き、採りたて野菜を購入しては日本の料理方法を教えてもらったり、見本の品を味わったりしながら直売所のしさんやしさんの奥さんとの会話を楽しみながら日本文化への興味も深めている。

Kさんの画材などは懇意にしている店から取り寄せる他、ネットで購入。

#### [ 移動活動 ]

市内への通勤には主に自転車。小型電気自家用車は遠出や子どもの発熱時など使用。

東京などへ行くときは、バス亭まで自転車で行き、その駐輪場に預けてバスに乗り、中心駅へ行く。自転車パーク&ライド。

## 4 - 2 . 2030 年の市民生活シナリオ：Lさん家族

Lさんは、60代半ば夫婦。公務員の息子夫婦(30代半ば)とその中学生と小学生の孫。また、90歳を超えた母親も同居。

家屋は大きな屋敷林を背負う長屋門のある昔からの造りの農家。Lさん夫婦と母親は離れに住み、息子夫婦は同じ敷地内に新築した戸建てに住む。母屋は改築して、直売場兼農家カフェとなっている。

### [ 仕事・労働 (ワークライフバランス) ]

代々の農家で、Lさん自身は、公務員だったのを、50歳で脱サラ、農業に参入。夫婦共々農民生活。

広い水田を持ち、耕運から収穫まではロボット農機具を駆使し、自宅に乾燥から籾摺り・精米までの施設を備えている。

水田の一部は、都市住民に貸し出しており、手作業中心の活動に供している。

要請があれば耕運や乾燥・籾擦などをLさんが請け負ったり、指導をしたりする。

台地側には畑もあり、年間を通じて見沼特有の野菜を作っている。屋敷林の落ち葉や近所の養鶏場の鶏糞を利用した、父親譲りの「有機野菜作り」を基本としている。

一方、周辺の農園とも連携して、見沼地域での栽培に適した野菜や果物の研究を続けており、ヨーロッパや南米の野菜・果物の生産に成功し、市内の各種料理店からの注文がある。

様々な「見沼ブランドの野菜・果物」を、加工・販売する仕組み(6次産業)を作って、直売所やインターネットを通じて広く売っている。

同居の息子は、公務員として手堅く働いているが、休日などは家業を手伝う。

息子の妻は、直売所や農家カフェで働く。もと教員で、もともと「食育」に力を入れていたが、生産・加工の側に身を置いてからは、農産物を育て、料理を作ることから始まる「食育」を追究。学校や他の地域で出張講演・出張料理教室なども行う。

同居の母親は、今でも農家カフェで、注文聞きを行う。また来場者や近隣の人達ともよくおしゃべりをしている。

### [ 子育て、教育 ]

中学生の長女は、市立の中学校まで自転車通学、テニスに夢中である。

小学生の長男は、おとなしく部屋に閉じこもりがちだったが、最近はおじいちゃんの農業を手伝うようになり、体も丈夫になってきた。

### [ 趣味、余暇活動 ]

外国人も含めた、日本農業体験・日本農業実習も行っている。

地域組織の中心となって、自然と歴史を学ぶ、「学」のフィールドとなっており、農家廻りツアーや、伝統芸能の継承を展開している。

しさんは以前、自治会や農協の役員など地域の実力者として活躍した関係で、今も教えを請いに来る人も多く、直売所はそれらの人々との交流の場となりしさんの生き甲斐ともなっている。

#### [ 地域活動、公共サービス ]

広大な雑木林が隣接するが、それを土地ごと市に譲渡。その保全活動を、都市住民や地域住民も含めた保全組織とともに行っている。

#### [ 防災、防犯 ]

地域内にキャンプ場があり、平時は市内外のキャンプ客で賑わうが、緊急時には他地域からの避難者を受け入れられるようになっている。

#### [ 医療、福祉 ]

年とともに身体のおちこちに不都合が出始めているが、地域内にはかかりつけの医院がない。定期的な治療は、地域交流センターに設けられる巡回医療を使うが、緊急の場合や大きな病気は車で通う。他エリアの病院や医院に通う。

また地域医療システムが構想されている。

#### [ 移動活動 ]

小型電気自動車の他、農業や農作物の運送のため、電気小型トラックを使用。

息子の通勤は、自転車でバス亭へ行き、そこからバス。自転車パーク&ライド。

近場の移動は、それぞれが自転車で。

#### [ エネルギー・廃物処理 ]

調整区域内の住宅のため下水道はなく、個別浄化槽を設けている。

屋敷林の落ち葉や枝打ちした木材などを燃料としたり、太陽光発電装置も備えるなど、生活上の自給自足が進んでいる。

農地や周辺の空き地には大規模な太陽光発電装置を設置。農業用エネルギーをまかなう。また災害時の備えとしている。